

全校朝会 講話(2.22)

皆さん、おはようございます。

先週は、いろいろな鬼の本についてお話しました。そして、最後に次の全校朝会で「桃太郎は盗人なのか?」という本について紹介すると話しました。それでは、倉持よつばさん、茨城県に住んでいる当時小学校5年生の作品、「桃太郎は盗人なのか?」について紹介します。

この本は、もともと倉持さんが図書館を使った調べる学習コンクールに出した作品がすばらしいというので、本を作る会社の人たちが作品を本にして、たくさんの人に読んでもらおう、と作ったものです。倉持さんがこの作品を作るきっかけとなったのは、「空から見た桃太郎」という本と出会ったことだと話しています。その本の中に、「桃太郎は盗人だ」と福沢諭吉という一万円札の肖像画になっている人が言っているというので、本当か調べてみようと思ったというのです。調べていくと、福沢諭吉は「ひびのおしえ」という本の中で、確かに「宝は鬼の大事なもので、大切にしまっているものですから、宝の持ち主は鬼です。鬼の物である宝を、意味もなく取りに行くとは、桃太郎は、盗人ともいえる悪者です」と書かれています。その他の本をいくつか読んでみても、1 桃太郎は急に鬼退治に行くと言い出す 2 鬼は何も悪いことはしていない 3 桃太郎は、鬼の宝を盗んだ と書かれている様です。その後倉持さんはいろいろな桃太郎の本を読んでみました。すると、本によって少しずつ違いがあることに気が付きました。特に今から300年前の江戸時代に書かれた桃太郎では、何と桃太郎は、桃から生まれたのではなく、川で流れていた桃を拾ったおばあさんのおなかの中から生まれたと書かれていたんです。その後作られた150年前の桃太郎から、桃太郎は桃から生まれた、と変わってきたんです。そして、昔の桃太郎では、鬼は悪いと決まっているので、桃太郎が急に鬼退治に行くと言ってもおかしくない、と書かれています。それでは、鬼っていったい何なの、ということで倉持さんは今度は鬼について詳しく調べていきます。そして、鬼について詳しくわかつて思う神社などを訪ねて全国をあちらこちら周って行きました。千葉県、埼玉県、京都府、秋田県など、いろいろなところに行き様々なことを調べてきた倉持さんは、次のように考えました。桃太郎の話は、時間が経つにつれ変わってきた。そして、鬼についても、悪い鬼からいい鬼もいるという風に変わってきた。鬼は一人一人の心の中にいる。鬼がいることは悪いことではなく、心の中の鬼がいるから、人は成長できる、そのように考えたといって、この調べる学習をまとめています。

倉持さんの、ある本との出会いと、調べてみようという気持ちの強さで、桃太郎についてのいろいろなことがわかりました。このように、知りたいと思ったことは本を使ってたくさん新しいことが分かっていきます。大切なことは、素直に知りたいと思う気持ちと、絶対調べたいと思う、粘り強い気持ちなのだと思いました。皆さんも同じように何かを知りたいと思ったらぜひ、調べてみることをお勧めします。

これで校長先生のお話を終わります。